

(2) 自然

教材開発のポイント



着
想

(1) 素材の収集・選定



集めてみよう

自然への畏敬の念が感じられる素材

- ・ 自然の偉大さや生命の尊さ等、感性に訴えるもの
- ・ 自然と人とのかかわり（環境保護等）が見えるもの

地域の自然の偉大さや生命の尊さ等の感性に訴えるものや環境保護等の自然と人とのかかわりが見えるものといった視点は必要である。また、発達の段階に応じて、畏敬の念の「畏怖」の面を感じさせたい。

○ 素材の収集に当たって

自然は、今昔や四季、一日の時間の流れの中で様々な表情を見せる。そのため、指導者の自然に対する愛着と感性が大切である。地域の自然のすばらしさといった視点をもつとともに、東西や南北といった県の広さにも着目したい。また、自然を守るために取り組んでいる人も素材となり得る。

○ 素材の選定に当たって

(2) 情報の収集



探してみよう

地域の自然の特性等に着目

- ・ 現地見学、調査
- ・ 科学的な裏付けのための専門家等への取材

りを考える際には、自然とかかわってきた人々の思いを聞き取ることが必要である。例えば、環境保護と開発の両面から多面的・多角的な情報の収集に当たりたい。さらに、自然現象等の科学的な裏付けが必要となることもあり、その際には、専門家等への取材を含め地域の方や関係機関と連携をとることも必要である。

自然の情報収集においては、特に現地見学、調査が重要である。

情報の収集に当たっては、特定の時期に限らず、現地の四季の移ろいなど一年間見続け、写真やビデオにとっておくことも大切である。素材となる場所の地名や伝説もその地域の自然の実態をとらえる手がかりとなる。また、自然と人とのかかわ

(3) 読み物資料の作成



書いてみよう

自然と人とのかかわりに留意

- ・ 人間と自然とのかかわりの多面的・多角的な記述
- ・ 児童生徒の自然体験の把握

念などを取り扱う際には、児童生徒の発達の段階による内容の広がり意識していきたい。また、畏敬の念については、自然とかかわりにおいて尊敬と畏怖の面が含まれているが、畏怖の側面をも生かしたもののになるよう意識したい。

① 主題やねらいを決定する

主題やねらいを決定するに当たっては、ここでいう自然が「道徳の内容：3の視点」の自然であることに留意したい。

主題として、自然の偉大さや生命の尊さなど、感性に訴えるものや環境保護の必要性を訴えるものが多い。そうした環境保全や生命尊重、畏敬の

構成・推敲



② 対象となる学年の発達の段階や特性等を把握する

把握内容としては、地域の自然のとらえ、これまでの自然体験の有無、今後の自然体験活動の予定などが考えられる。また、児童生徒にとって地域の自然は身近すぎ、そのすばらしさに気付いていないことも多いことから、そのすばらしさをテーマに自由作文を書かせたり聞き取ったりして、自然のとらえを把握することも一つの方法である。

③ 登場人物や状況を設定する

登場人物や状況の設定は、人間と自然とのかかわりを多面的・多角的に表すことが望まれる。その際、事実や現実とかけ離れないようにすることに留意したい。

④ 中心場面（山場）を決め、大まかな起承転結を設定する

自然の偉大さや生命の尊さなどが児童生徒に伝わるエピソードの挿入が求められる。感情をもたない自然を題材とする場合には、自然と人、人と人とのかかわりにおける登場人物の気持ちを通して自然を見ていく場面設定が必要である。

⑤ 場面分けをもとに文章化する

登場人物の気持ちを描く場合、自然への見方や考え方に起伏や変化をもたせて表現することが大切である。また、自然のすばらしさに気付かせるためには、「母なる山、恐羅漢」（開発例1）「どうぶつたちが生き生きとこの森を駆け回るようになったのです。」（開発例2）など自然の情景について比喻や副詞を効果的に使った描写を工夫するとともに、例えば、「日本一夕日が美しいといわれている〇〇の風景に負けないくらいの美しさである」といった比較の対象となるものを取り上げることも考えられる。さらに、地名等の特別な読み方については、ふりがなを入れることが必要である。

⑥ 不要な場面や文言を削除する

登場人物の地域の自然に触れた時の思いやかかわっている方とのふれあいを通して感じた思いについて、直接描いている場合には、行動や周りの情景描写から考えさせるよう言葉や文章の精選をしていくことが大切である。

（４）授業の実施



実践してみよう

効果的な展開

- ・ 実施する時季等の配慮
- ・ 写真や映像の活用
- ・ 自然体験活動を生かした展開

児童生徒の自然体験活動を生かすことも考えられる。

自然にはその時季に感じるすばらしさがあることから、資料の内容に適した時季での実施や実際にその場に出かけるなどの工夫が考えられる。

四季や時間の流れによる自然の変化や美しさが一目で分かるように写真や映像等を補助資料として活用したり、自然にかかわってきた地域の方に話をしてもらったりすると効果的である。また、

（５）体制・環境づくり



充実させよう

環境美化の充実

- ・ 美的情操の育成

勤労体験活動やボランティア活動、文化にかかわる体験等を通して、自然や、優れた芸術作品等美しいものと出会う機会をつくりたい。そこでの体験を生かして、人間と自然、あるいは美しいものとのかかわりを多面的・多角的にとらえさせていくことが望まれる。